

岩手県感染症週報

平成26年第41週(10月6日～10月12日)

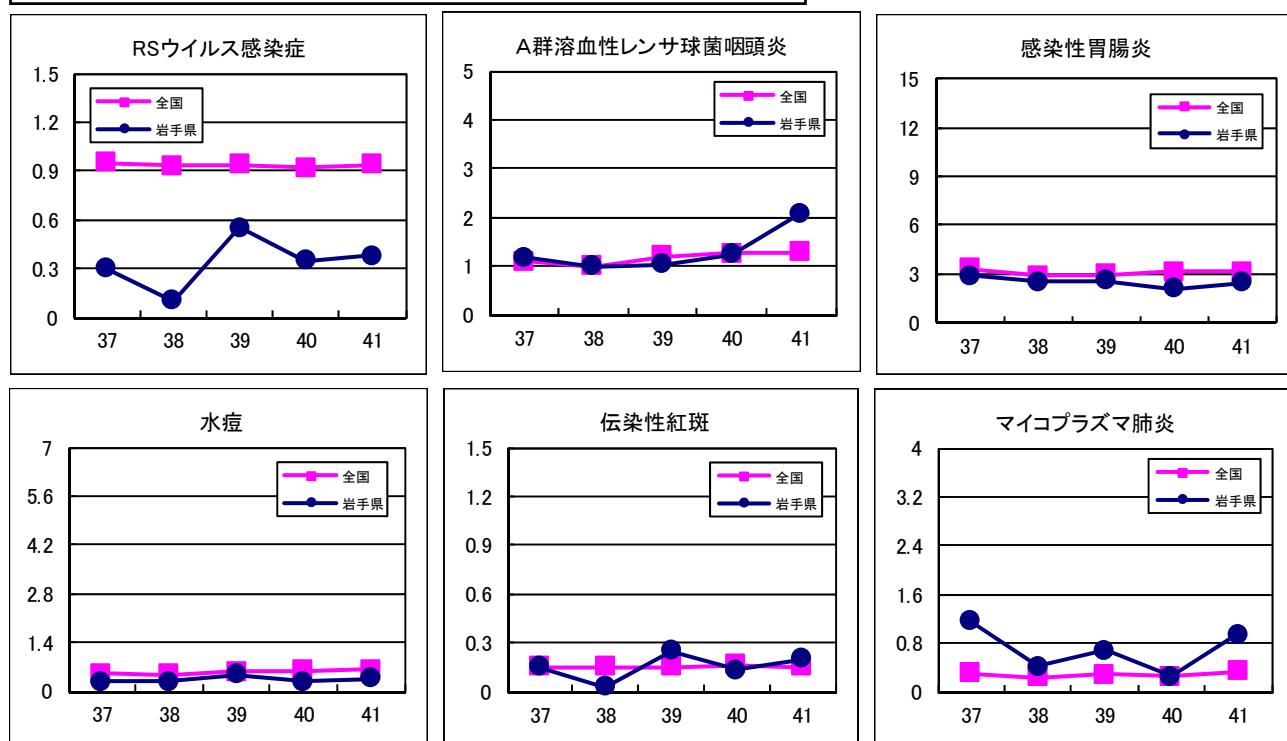
岩手県感染症情報センター

第41週の概要

- 1類感染症 ・患者発生の報告はありませんでした。
- 2類感染症 ・結核の患者の報告が6例ありました。このうち、潜在性結核感染症の患者の報告はありませんでした。
- 3類感染症 ・腸管出血性大腸菌感染症(O157など)は、2例の報告があり、今年の累積報告数は125例となりました。
- 4類感染症 ・E型肝炎ウイルス患者の報告が、一関地区より1例ありました。
- 5類感染症（全数把握対象疾患）
・侵襲性肺炎球菌感染症の患者の報告が、大船渡地区より1例ありました。
- 5類感染症（定点把握対象疾患）
 - ・溶連菌咽頭炎は、例年患者数の少ないこの時期に比較してかなり報告数が多くなっています。地区別では中部地区に多くなっています。突然の発熱、咽頭痛、全身倦怠感によって発症し、体幹に発疹を伴うこともあります。感染後急性腎炎を併発することがあるので、7から10日間の抗菌薬内服が必要です。
 - ・RSウイルス感染症は、鼻水、咳、発熱が主な症状で、細気管支炎や肺炎などは乳幼児に多く、呼吸困難を呈することがあります。例年、秋から冬にかけて報告数が増加するので、今後の発生動向に注意が必要です。
 - ・マイコプラズマ肺炎は、奥州および宮古地区で多くなっています。マイコプラズマという小型の細菌を原因とする学童から若年成人に多い呼吸器感染症で、長く続く乾いた咳を特徴とします。適切な抗菌薬療法が必要です。

最近の注目疾患（定点あたり患者数の過去5週の動き）

(疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意)



定点把握対象疾患（過去5週の動き）

※2013年第42週より感染性胃腸炎（ロタウイルス）が定点把握対象疾病となりました。

(定点あたり患者数)

疾病名	地域	週					流行傾向
		37	38	39	40	41	
インフルエンザ	岩手県	0	0	0	0	0.05	→
	全国	0.05	0.04	0.07	0.07	0.06	
RSウイルス感染症	岩手県	0.3	0.1	0.55	0.35	0.38	→ ☆
	全国	0.95	0.93	0.94	0.92	0.94	
咽頭結膜熱	岩手県	0.08	0.18	0.1	0.15	0.15	→ ☆
	全国	0.43	0.32	0.27	0.27	0.27	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	岩手県	1.18	1	1.03	1.25	2.08	↗ ☆
	全国	1.09	0.99	1.19	1.26	1.28	
感染性胃腸炎	岩手県	2.88	2.53	2.6	2.1	2.45	→ ☆
	全国	3.3	2.9	2.92	3.13	3.12	
水痘	岩手県	0.28	0.28	0.48	0.28	0.35	→ ☆
	全国	0.5	0.46	0.56	0.59	0.63	
手足口病	岩手県	1.7	1.3	0.58	0.53	0.65	→ ☆
	全国	1.11	0.83	0.66	0.71	0.78	
伝染性紅斑	岩手県	0.15	0.03	0.25	0.13	0.2	→ ☆
	全国	0.15	0.15	0.15	0.16	0.15	
突発性発疹	岩手県	0.38	0.43	0.4	0.48	0.48	→ ☆
	全国	0.61	0.54	0.55	0.56	0.57	
百日咳	岩手県	0	0	0	0	0	→
	全国	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	
ヘルパンギーナ	岩手県	2.65	0.95	0.8	0.58	0.38	→ ☆
	全国	1.69	0.93	0.63	0.5	0.38	
流行性耳下腺炎	岩手県	0.23	0.23	0.1	0.18	0.2	→ ☆
	全国	0.31	0.29	0.29	0.3	0.28	
急性出血性結膜炎	岩手県	0	0	0	0	0	→
	全国	0.01	0.01	0	0.01	0.01	
流行性角結膜炎	岩手県	0	0.21	0.29	0.21	0.71	→ ☆
	全国	0.63	0.51	0.48	0.55	0.49	
細菌性髄膜炎	岩手県	0	0	0	0	0	→
	全国	0.01	0.01	0.01	0.01	0.02	
無菌性髄膜炎	岩手県	0	0	0	0.16	0	→ ☆
	全国	0.06	0.03	0.04	0.04	0.05	
マイコプラズマ肺炎	岩手県	1.16	0.42	0.68	0.26	0.95	↗ ☆
	全国	0.3	0.24	0.28	0.26	0.33	
クラミジア肺炎（オウム病を除く）	岩手県	0	0	0	0	0	→
	全国	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	岩手県	0	0.05	0	0	0	→
	全国	0.01	0.02	0	0.01	0.01	
インフルエンザ（入院患者） ※報告数であることに注意	岩手県	0	0	0	0	1	
	全国	5	1	3	4	5	

【流行傾向の見方】

無印：ほとんど患者が発生していません

☆：患者が発生しています

☆☆：警報値を超えた地区が1～2地区あります

☆☆☆：多くの地区で警報値を超えています

全数把握対象疾患（過去5週の動き）

※重症熱性血小板減少症候群（SFTS）が
2013年10週より対象疾患になりました。
(患者発生数)

	疾病名	岩手県						全国	
		37	38	39	40	41	累計	41	累計
一類 感染症	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	痘そう	0	0	0	0	0	0	0	0
	南米出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	ペスト	0	0	0	0	0	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0	0	0
二類	急性灰白髄炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	結核（）内は潜在性結核感染症患者再掲	2 (1)	2 (0)	7 (1)	4 (0)	6 (0)	215 (80)	359	20194
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症呼吸器症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ（H5N1）	0	0	0	0	0	0	0	0
三類	コレラ	0	0	0	0	0	0	0	4
	細菌性赤痢	0	1	0	0	0	3	7	98
	腸管出血性大腸菌感染症	12	3	3	2	2	125	71	3573
	腸チフス	0	0	0	0	0	0	1	43
	パラチフス	0	0	0	0	0	0	0	15
四類 感染症	E型肝炎	0	0	0	0	1	4	1	112
	ウエストナイル熱（ウエストナイル脳炎を含む）	0	0	0	0	0	0	0	0
	A型肝炎	0	0	0	0	0	1	5	409
	エキノコックス症	0	0	0	0	0	0	0	15
	黄熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	オウム病	0	0	0	0	0	0	0	8
	オムスク出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	回帰熱	0	0	0	0	0	0	0	1
	キャサヌル森林病	0	0	0	0	0	0	0	0
	Q熱	0	0	0	0	0	0	0	1
	狂犬病	0	0	0	0	0	0	0	0
	コクシジオイデス症	0	0	0	0	0	0	0	1
	サル痘	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症熱性血小板減少症候群（SFTS）	0	0	0	0	0	0	0	56
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	西部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ダニ媒介脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	炭疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	チクングニア熱	0	0	0	0	0	0	0	10
	つつが虫病	0	0	0	0	0	5	1	117
	デング熱	0	0	0	0	0	1	5	312
	東部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ（H5N1、H7N9を除く）	0	0	0	0	0	0	0	0
	ニパウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	日本紅斑熱	0	0	0	0	0	0	9	186
	日本脳炎	0	0	0	0	0	0	0	2
	ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	Bウイルス病	0	0	0	0	0	0	0	0
	鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	ブルセラ症	0	0	0	0	0	0	0	10
	ベネゼエラウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ヘンドラウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	発疹チフス	0	0	0	0	0	0	0	0
	ボツリヌス症	0	0	0	0	0	0	0	1
	マラリア	0	0	0	0	0	0	1	51
	野兎病	0	0	0	0	0	0	0	1
	ライム病	0	0	0	0	0	0	0	11
	リッサウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	リフトバレー熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	類鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	レジオネラ症	0	0	0	0	0	5	11	955
	レプトスピラ症	0	0	0	0	0	0	1	34
	ロッキー山紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	0

全数把握対象疾患（続き）（過去5週の動き）

(患者発生数)

※カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症、水痘（入院例）、播種性クリプトコックス症、薬剤耐性アシネットバクター感染症が2014年第38週より報告されることになりました。

分類	疾病名	(週)						岩手県	全国
		37	38	39	40	41	累計		
五 類 感 染 症	アメーバ赤痢	0	1	0	1	0	13	10	870
	ウイルス性肝炎（A型肝炎及D型肝炎を除く）	0	0	0	0	0	0	2	191
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	0	0	0	0	0	0	8	55
	急性脳炎（エストナイル脳炎及び日本脳炎を除く）	0	0	0	0	0	4	3	368
	クリプトスポリジウム症	0	0	0	0	0	1	0	85
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	0	0	3	3	137
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	0	0	0	1	3	213
	後天性免疫不全症候群	1	0	0	0	0	1	12	1188
	ジアルジア症	0	0	0	0	0	0	2	48
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	0	0	0	0	0	1	154
	侵襲性皰膜炎菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	27
	侵襲性肺炎球菌感染症	0	0	0	0	1	8	11	1337
	水痘（入院例）	0	0	0	0	0	0	7	34
	先天性風しん症候群	0	0	0	0	0	0	0	9
	梅毒	0	0	0	0	0	2	18	1274
	播種性クリプトコックス症	0	0	0	0	0	0	1	3
	破傷風	0	0	0	0	0	4	3	106
	パンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	パンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	38
指定	風しん	0	0	0	0	0	1	1	291
	麻しん	0	0	0	0	0	0	1	451
指定	薬剤耐性アシネットバクター感染症			0	0	0	0	0	0
	中東呼吸器症候群（MERS）	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ（H7N9）	0	0	0	0	0	0	0	0

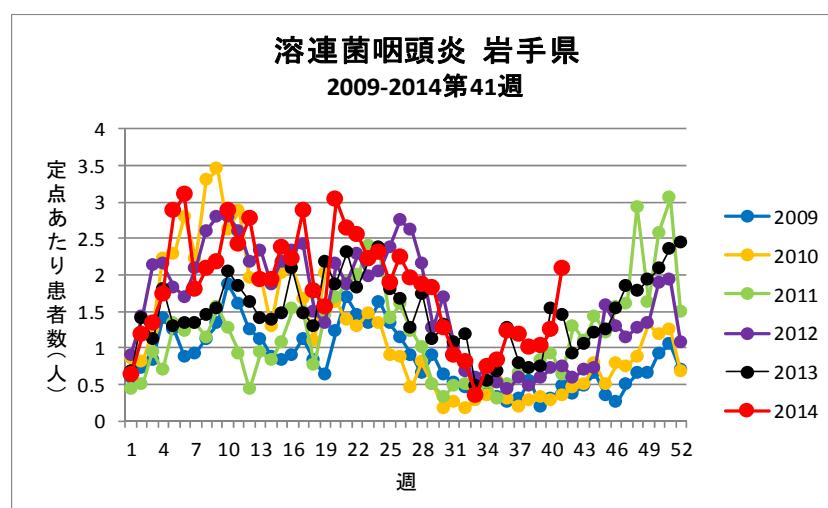
今注目の感染症

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、A群溶血性レンサ球菌による急性咽頭炎です。潜伏期間は2～5日で、突然の発熱、咽頭痛、全身倦怠感によって発症し、体幹に発疹を伴うことがあります。感染後急性腎炎を併発する所以あるので7～10日間の抗菌薬内服が必要です。予後良好の疾患ですが、菌が産生する毒素に免疫がない場合には猩紅熱に発展する場合があります。

予防には、患者との濃厚接觸を避けることが最も重要で、うがいや手洗いなどの励行、マスクを用いた咳エチケットも重要です。

岩手県での発生状況ですが、例年、冬と、春から初夏にかけて2つ報告数のピークがあります。例年、第41週は患者数が少ない時期ですが、今年は、過去5年間で患者数が一番多く報告されています（下図）。



今注目の感染症（つづき）

デング熱

デング熱は、主にネッタイシマカやヒトスジシマカ（写真1）が媒介するウイルス性の急性熱性感染症です。症状は、感染（蚊に刺されてから）2～15日（多くは3～7日）後、突然の発熱、激しい頭痛、関節痛、筋肉痛、発疹等が現れます。予後は比較的良好ですが、まれにデング出血熱やデング症候群に移行することがあります。

日本国内では1942～1945年にかけて流行しました。それ以降、海外のデング熱流行地域（図1）からの輸入症例の報告はありますが、国内流行はありませんでした。（グラフ1は全国の届出状況）

平成26年8月26日、海外渡航歴がないデング熱の患者が確認され、国内でデング熱に感染したと考えられています（国内感染事例）。その後国内感染事例の報告が相次ぎ、10月15日現在で159名に達しています。

岩手県では、9月5日に国内感染事例が1例確認されています。一方、輸入症例は、平成11～26年8月までに3例発生しています（表1）。

蚊が多い場所に行くときは、肌を露出せず、虫除け剤を使用するなど、蚊に刺されないようにしましょう。また、蚊に刺されて、3～7日程度で発熱等の症状がある場合には、速やかに医療機関を受診しましょう。

厚生労働省 デング熱について

http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekakku-kansenshou19/dengue_fever.html

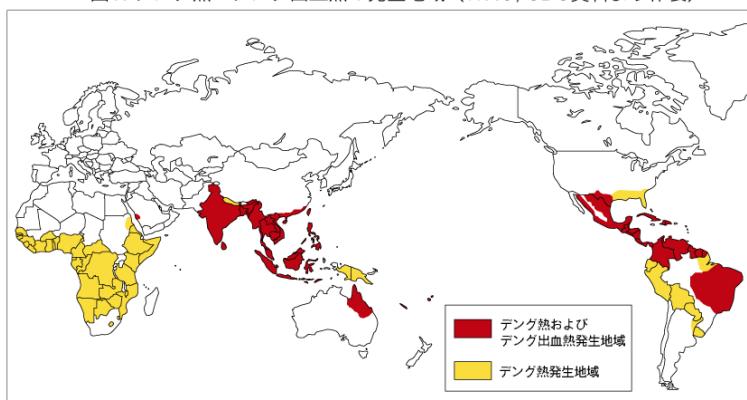
国立感染症研究所 デング熱とは

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/encyclopedia/392-encyclopedia/238-dengue-info.html>

岩手県相談窓口（県内の各保健所）

<http://www.pref.iwate.jp/iryou/kenkou/jouhou/028388.html>

図1. デング熱・デング出血熱の発生地域（WHO, CDC資料より作製）



国立感染症研究所「デング熱とは」より

吸血するのは雌蚊
蚊の体内でのウイルスの増殖：7～10日
活動範囲：50～100m
寿命：成虫になって、30～40日
活動時期：5月～11月
国内分布：青森県以南の地域



ヒトスジシマカ

国立感染症研究所昆虫医科学部

グラフ1 全国のデング熱届出状況
(平成11年～平成25年)

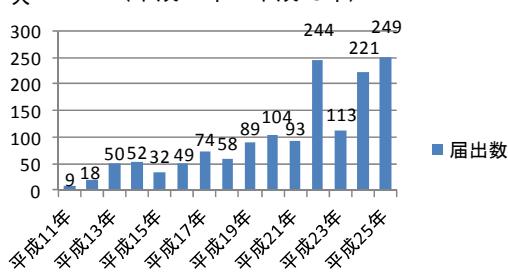


表1デング熱届出状況(岩手県 平成11年～平成26年8月)

診断日	届出保健所	性別	年齢	感染地域 (推定含む)
1 平成24年12月11日	一関	男	48	フィリピン
2 平成23年7月28日	盛岡市	男	46	バングラデシュ
3 平成21年8月25日	一関	女	16	フィリピン

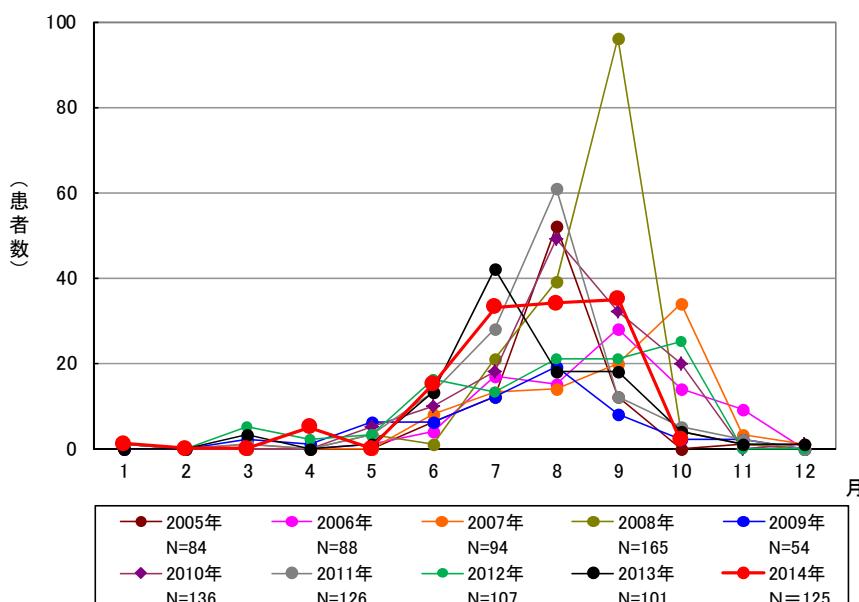
今注目の感染症（つづき）

腸管出血性大腸菌感染症

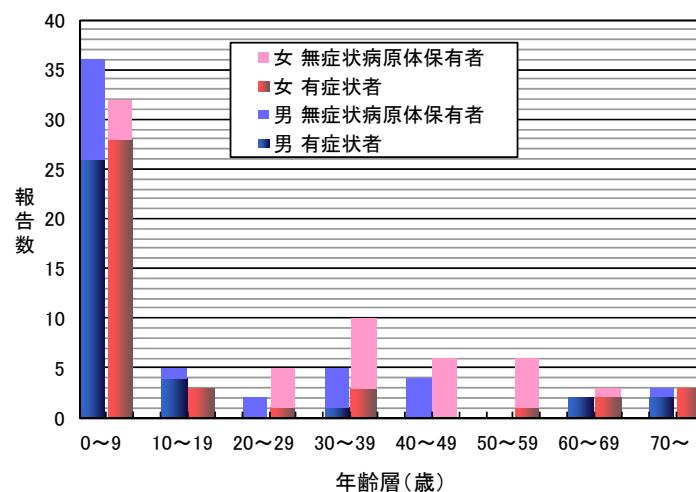
腸管出血性大腸菌感染症は、第41週までに125例の患者さんが報告されています。原因となつた大腸菌は、O157が18例、O26が91例、O103が11例、O145が3例、その他が2例となっています。年齢層別では、0～9歳が68名、30～39歳が15名、40～49歳が10名の順に多くなっています。

予防には、食中毒予防の基本を守り、生レバーや加熱不十分な食肉等を食べないこと、野菜は流水で十分に洗うことが重要です。また、ヒトからヒトへの二次感染を予防するため、排便後・食事前の石けんと流水を用いた手洗いの励行も重要です。

腸管出血性大腸菌感染症 月別患者数 (岩手県2005年～2014年)



腸管出血性大腸菌感染症の報告数、岩手県 性・年齢・症状の有無別、2014年第41週、N=125



病原体検出情報

- この週に、病原体検出情報はありません。

集団感染情報

- この週に集団感染情報はありません。

医療機関からの情報

- この週には医療機関からの情報はありません。

Q & A

読者の皆様からのご質問にはこの欄でお答えします。

医療機関からの情報や読者の皆様からのご質問は下記の宛先までお寄せください。

岩手県感染症情報センター（岩手県環境保健研究センター保健科学部内）

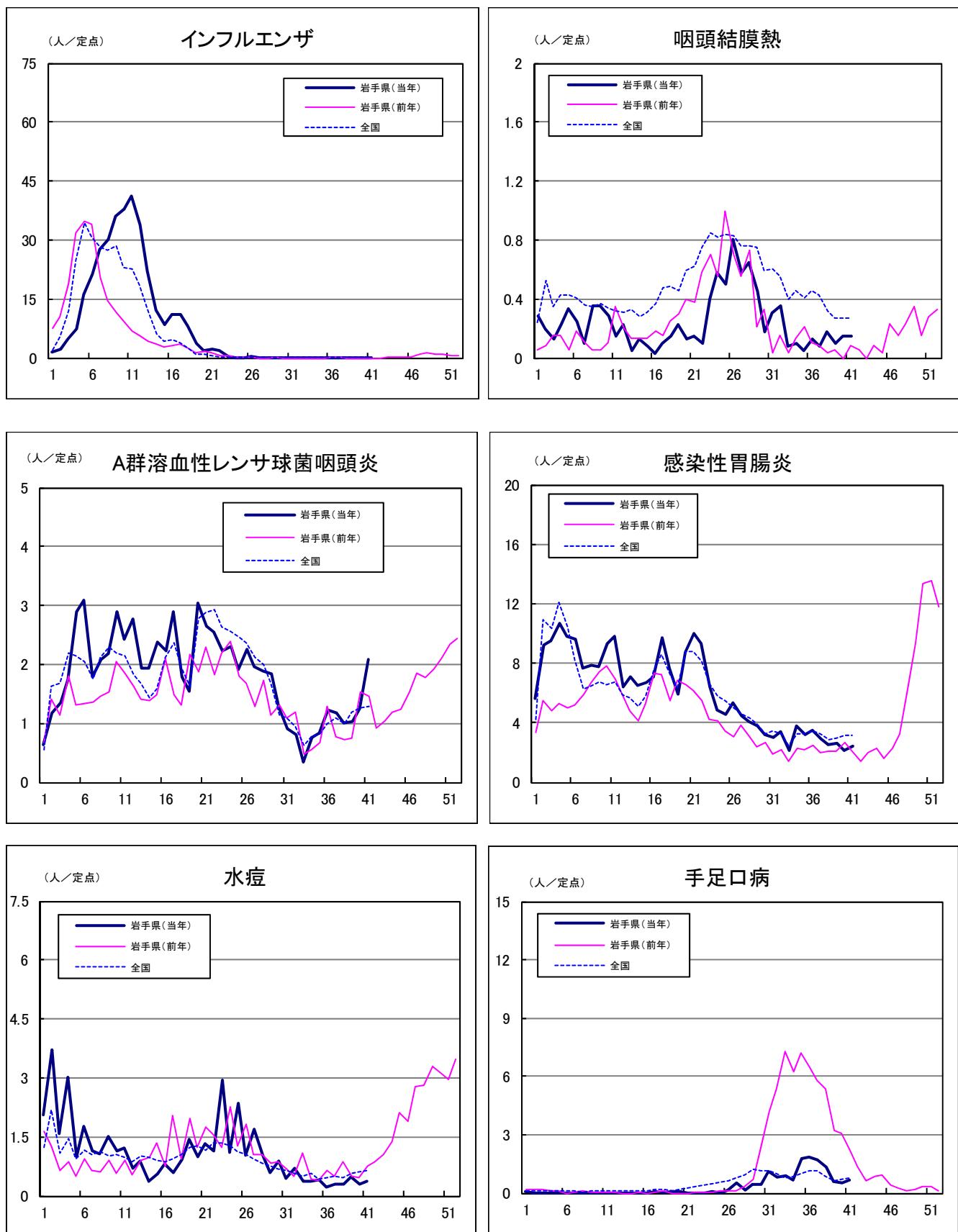
〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16

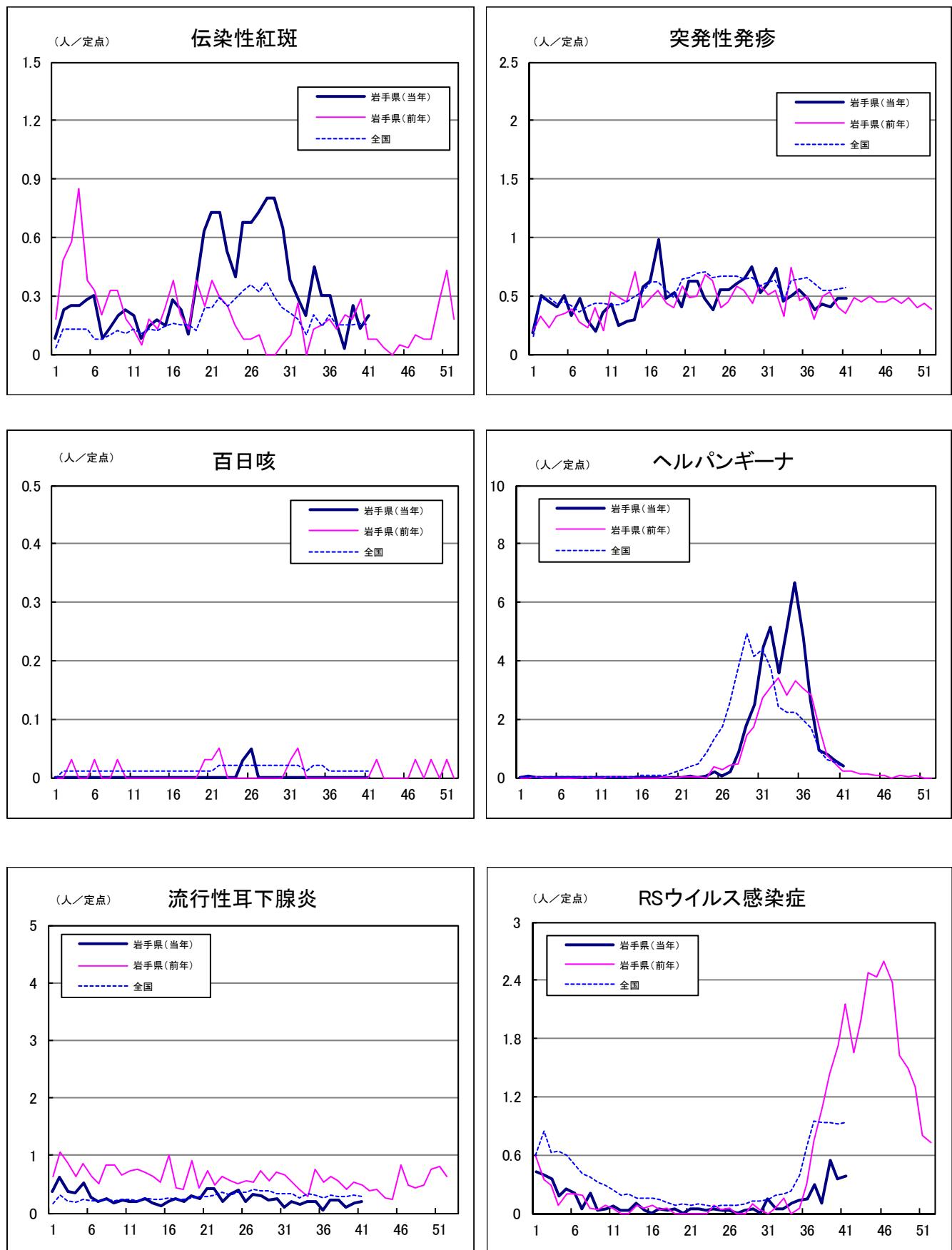
（平成24年2月20日より住居表示が変更となりました。）

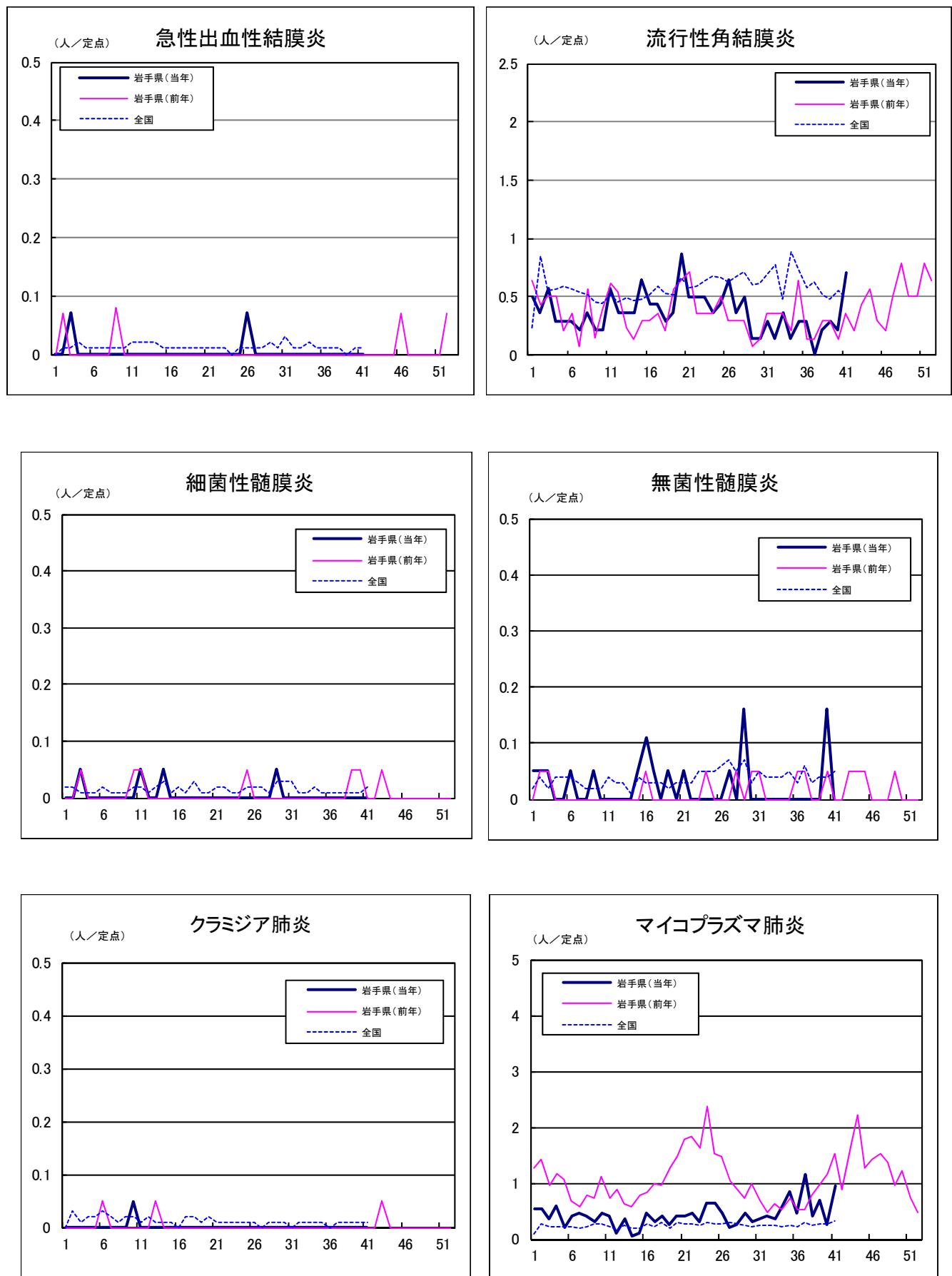
TEL:019-656-5669（直通） FAX:019-656-5667

E-mail : CC0019@pref.iwate.jp

疾病別グラフ（定点あたり患者数の推移）







定点医療機関の数

地区\定点種別	インフル エンザ	小児科定 点	眼科定点	基幹定点
岩手県	64	40	14	19
盛岡市	11	7	3	5
県央	7	5	2	0
中部	12	7	2	4
奥州	7	4	1	2
一関	7	4	1	2
大船渡	6	4	1	1
釜石	3	2	1	1
宮古	5	3	1	1
久慈	3	2	1	1
二戸	3	2	1	2



8

無料です!!

岩手の感染症情報を毎週メールでお届けする

「岩手県感染症情報ウィークリーマガジン」を配信しています。

配信の登録は以下のURLからお願いします。

<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/mailmagazine.html>

岩手県感染症週報 平成26年第41週 平成26年10月17日発行

監修：岩手県感染症発生動向調査委員会

発行：岩手県環境保健研究センター

岩手県保健福祉部医療政策室

事務局：岩手県感染症情報センター

(岩手県環境保健研究センター保健科学部内)

〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16

(平成24年2月20日より住居表示が変更となりました。)

TEL:019-656-5669 (直通) FAX:019-656-5667

E-mail : CC0019@pref.iwate.jp

URL : <http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/>

<岩手県感染症情報センター>

<http://www.pref.iwate.jp/iryou/kenkou/jouhou/index.html>

<岩手県保健福祉部医療政策室>